

学校だより



1月 すくすくすのき

平成31年 1月18日

阿武町立阿武小学校

10号

『みんなの特別支援教育をめざして』

校内特別支援コーディネーター・つばさ学級担任 用 殿 正 和

●学校生活に“特別支援教育”の視点を

今回は、地域や保護者の方々に本校の特別支援教育についてお伝えしたいと思います。

私は、特別支援教育とは、障害の有無にかかわらず、すべての子どもたちのためにすべての教員が関わる教育のことだと考えています。

本校では今年度、「**豊かなかかわりの中で、主体的に学び続ける子どもの育成(2年次)**」の研究主題の元、「特別支援教育の視点を踏まえた、どの子ども生きる学校生活づくり 『阿武小スタンダード』の創造」をめざして取り組んでいます。

本校がめざしている「特別支援教育の視点を取り入れた学校生活づくり」とは、すべての児童がわかる喜びや学ぶ意義を実感したり、自分の存在意義を実感できたりするために必要な支援をしていくことだと考えています。これは、配慮を要する児童には『ないと困る支援』であり、他の児童にとっても『有効な支援』となっていきます。このような支援を個々の実態や教科の特性、指導場面などに合わせ、学校生活全般にわたって工夫していくことが大切となるのです。

さらに、この支援は、“特定のだけか”のためだけではなく、“どの子にとっても”有効なものとなります。どの子ども生きる学校生活につなげるため、授業だけでなく、学校生活の様々な場面で特別支援教育の視点を取り入れていくことを、今年度は特に意識して取り組んでいます。

●教育相談をご存知ですか？

こんなことで困っていませんか？

●遊びの中で

- ・友だちとすぐけんかになる
- ・順番が守れない
- ・冗談が通じない
- ・会話が一方的である
- ・一人遊びが多い
- ・特定のものやことに強くこだわる



など

●学習の中で

- ・忘れ物が多い
- ・授業中、落ち着きがない
- ・集中時間が短い
- ・姿勢が崩れやすい
- ・動きがぎこちない
- ・文字を覚えられない
- ・読むことが苦手



など

●生活の中で

- ・こだわりのためにスムーズに行動できない
- ・自分の思ったことを場を意識せずに言う
- ・注意しても同じことを繰り返す
- ・話を最後まで聞かずに行動する



など

このような、子どもたちの遊びや学習、生活の中の「ちょっとした気になる行動」は、わがままや経験不足、努力不足によるものではない場合があります。その特性から「困った子」と捉えられてしまうこともあります。その子が「困っている」ことに早く気づき、周りが理解し、一人ひとりに合った対応をす

ることについて相談することがとても大切となります。その対応への架け橋になるものが『教育相談』なのです。

例えば、そういった「気になる行動」の原因が、発達障害によるものだった場合、少しでも早く対応することが大切です。発達障害について、具体的にわかりやすく言うと次のような状態です。

発達障害とは

生まれつきの脳機能の発達のアンバランスさ・凸凹（でこぼこ）と、その人が過ごす環境や周囲の人とのかかわりのミスマッチから生きづらさや困難さが生まれる障害

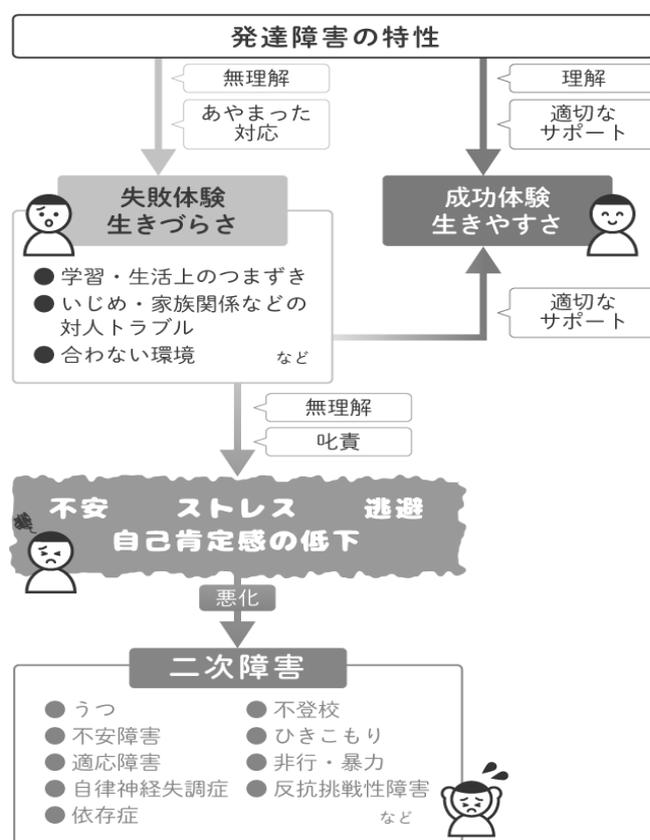
少し昔になりますが、2012年の文部科学省の調査に関して、次のような記事がありました。

全国の公立小中学校の通常学級に在籍する児童生徒のうち、人とコミュニケーションがうまく取れないなどの発達障害の可能性のある小中学生が6.5%に上がることが、文部科学省の調査で分かった。推計で約60万人に上り、40人学級で1クラスにつき2、3人の割合になる。しかし4割弱の児童生徒は特別な支援を受けていない。

発達障害はその発達過程やライフステージなどで困りごとや特性が強く現れ、初めて分かるケースがほとんどです。外見からはわかりにくく、大人になっても気づかない人もいます。

また、発達障害の特性が理解されないまま、生きづらさが強くなると、心の病や行動の問題など、二次的な障害を引き起こすことがあります。右図は二次障害におちいりやすいプロセスです。

お子様の発達や、行動の特性にどう対応すればよいのかなど、気になることや心配なことがありましたら学級担任、または特別支援教育コーディネーター（用殿）までお気軽にご相談ください。



切り取り

ご要望・ご意見欄

学校へのご要望・ご意見がございましたら、下記にご記入の上、切り取ってご提出ください。

学年または地区（ ） お名前（ ）